



隅田 一豊 教授

## 献 辞

隅田一豊先生は平成17年3月退職されました。ここに、私たちの心からの感謝の気持ちと惜別の思いをこめて「退職記念号」を編集し、先生に捧げるものである。

隅田先生は以下の通り16年間にわたり本学において活躍されました。先生は昭和37年3月同志社大学商学部を卒業後、Price Waterhouse & coに勤務し、その後、昭和42年3月に中央大学大学院商学研究科修士課程を修了し、平成15年に同志社大学で博士（商学）号を取得しています。昭和44年札幌商科大学商学部助手、同45年講師、同49年助教授、同52年教授、同54～55年イリノイ大学客員研究員を経て、昭和59年中部大学経営情報学部教授に採用され、その後平成元年横浜国立大学経営学部教授に採用され、平成14年より国際社会科学研究所教授となり、平成17年3月31日に定年によって退職しました。

先生の学問業績は実に顕著なものであり、財務会計、国際会計、政府会計、非営利事業会計等、幅広い会計学の分野の研究につとめてきました。その研究業績は、単著5冊、編著3冊、共著10冊、約70編の論文にまとめられています。特に、地方公共団体の会計、情報開示及び監査の諸制度の改革に関する先駆的な業績は、平成10年に『住民自治とアカウントビリティ——日・米・英の地方公会計及び監査制度の基礎——』（税務経理協会）として公刊され、すでに高い評価を得ています。

教育活動の面では、本学において経営学部会計・情報学科で、「公会計論」、「非営利事業会計論」を担当し、国際社会科学研究所博士前期課程及び後期課程企業システム専攻では、「公会計特論」及び「地方公会計制度論」を担当しました。その間、大学の管理運営面においては、会計・情報学科長、教務委員長、厚生委員長などの要職を歴任し、全学の役職でも、全学教務委員長、教養教育主事（評議員を併任）をつとめるなど、学部内はもとより全学的な管理運営にも寄与してきました。

学会においては、国際公会計学会会長、地方自治研究学会常任理事、日本経済学会連合評議員をはじめ、日本会計研究学会、American Accounting Association、監査研究学会、地方財政学会等の会員として活躍してきました。その広い研究業績から、行政機関においては、経済企画庁「物価安定政策会議」専門委員、会計検査院「情報公開審査会」委員、総務省「地方独立行政法人会計基準等研究会」座長、国土交通省「入札監視委員会」委員、神奈川県「相模川水系建設事業再評価委員会」委員、横浜市「横浜港経営計画検討調査委員会」委員長等を歴任してきました。

また、熱心な指導によって多くの優秀な人材を育成し、真摯な研究活動によって学界・社会に寄与するとともに、献身的な大学行政への取り組みによって本学の発展に貢献してきました。

私ごとくに印象に残っているのは本学の長年の夢であった博士課程後期国際開発研究所の創設における冷静な判断と情熱です。また、会計学のフロンティアであった公会計とい

う研究分野を本学において定着させたこともその貢献といえるでしょう。  
隅田先生の長年にわたるご尽力とご貢献に心からの感謝を申し上げますとともにますますの  
ご健勝、ご活躍を祈念するものであります。

平成17年 6月

横浜国立大学経営学会長  
山 倉 健 嗣